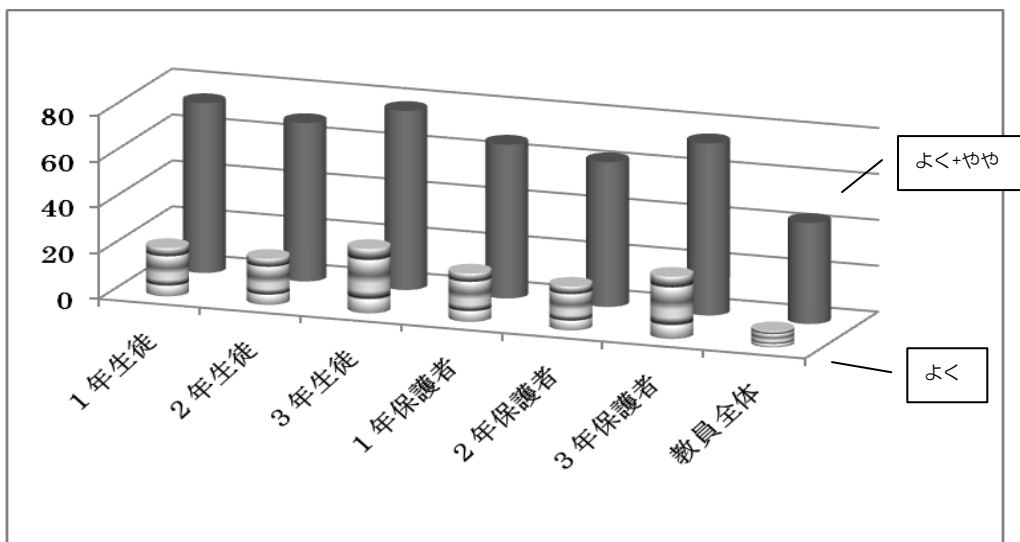


# 分析と考察

## 1. 三者の立場による違い

自己診断は例年「生徒」「保護者」「教員」の3者に対して実施しており、内容の近い質問項目の結果を比較することで、立場の違いが垣間見られることはもちろん、いくつかの成果や課題が見えることもある。以下、いくつか挙げる。

### (1) 自己管理能力



これは「自己管理能力が十分あるか」についての質問の結果をグラフ化したものである。「あてはまる」「ややあてはまる」の合計は教員全体以外は50%を超えている。最も高い値は3年生徒の78%で、最も低い値は教員全体の44%であった。例年同様、生徒は概ね自己管理能力があると感じており、保護者もそれに近く、教員だけはそうは思っていない。やはり生徒・保護者・教員では「自己管理能力」というものの認識に大きな差があることがうかがえる。教職員は遅刻指導や忘れ物などの持ち物の管理の指導の場面で生徒のいい加減さを意識することが多いことも数字に現われているのではないかと考えられる。生活指導については適切に行われていると考えている(教員質問6・・・よく+やや90%)ので、生活指導については自己管理能力を伸ばすというより、発生した事象について適切に対処するという点を重視しているようだ。

(注：以後、文中に「よく+やや」や「よく」という記述が見られるが、実際のアンケートの選択肢は「あてはまる」と「ややあてはまる」である。便宜上、「あてはまる」の回答者を「よく」と表現している。)

なお、この自己管理能力について、生徒の1年次の経年変化をみると、10年前に比べて10%近くも数値が上がっている。

1年生	63期生	64期生	65期生	66期生	67期生	68期生	69期生	70期生	71期生
あてはまる (%) ①	11	9	13	16	17	22	13	20	21
ややあてはまる (%) ②	48	49	50	48	54	53	56	54	53
①+② (%)	59	58	63	64	71	75	69	74	74

63,64期生が1年次の時には「よく」と「やや」の合計が60%を下まわっていたのだが、年々数値が上がり、今年の1年生70,71期生のそれは74%と跳ね上がっている。他方、保護者の数値の変化はさほど見られない(例年60%後半)。生徒たちが何を根拠に「自己管理能力がある」と感じているのか非常に興味深い。

(2) 進路指導に関して

保護者：学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている(%)

	1年	2年	3年
あてはまる	18	14	19
ややあてはまる	66	64	51
あまり当てはまらない	<u>14</u>	<u>21</u>	<u>25</u>
あてはまらない	<u>2</u>	<u>2</u>	<u>5</u>

生徒：① コース選択や科目選択のための情報は、学校からよく提供された

② 自分の進路に必要な科目が、本校の授業から選択できる (%)

質問の種類	1年		2年		3年	
	①	②	①	②	①	②
あてはまる	37	57	25	55	24	52
ややあてはまる	44	35	53	34	47	35
あまり当てはまらない	<u>16</u>	7	<u>17</u>	9	<u>22</u>	8
あてはまらない	<u>3</u>	1	<u>4</u>	2	<u>8</u>	3

教員：生徒1人1人が興味・関心・適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている (%)

	20代	3、40代	50代	60代
あてはまる	30	57	43	38
ややあてはまる	50	43	53	63
あまり当てはまらない	<u>10</u>	<u>0</u>	<u>3</u>	<u>0</u>
あてはまらない	<u>10</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>

想定内の結果かもしれないが、教員は進路選択において、手を尽くしてサポートしているつもり(?)なのであるが、保護者・生徒ともに、そうはとらえていない、まだまだ学校側はやり尽くせていない、と考えているようである。

回答結果の「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計が、保護者・生徒ともに学年が上がるにつれ不満も上がってきているらしく、1年は両者とも10%台なのが、2年になると20%台になり、3年になると30%にまで上がってきている。(ただ、科目選択においては、まあまあそれなりに失敗なく選択できている、と生徒は思っているようである。)それに対して、教員側は、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の合計が、生徒と年齢層の近い20代教員でこそ20%あるが、そのほかの教員は、ほぼ0に近い。

もうひとつ、進路指導面に関する項目で、家庭連絡の綿密さをたずねているものがあるが、保護者側のとらえかたが、はっきりとよくわかる。

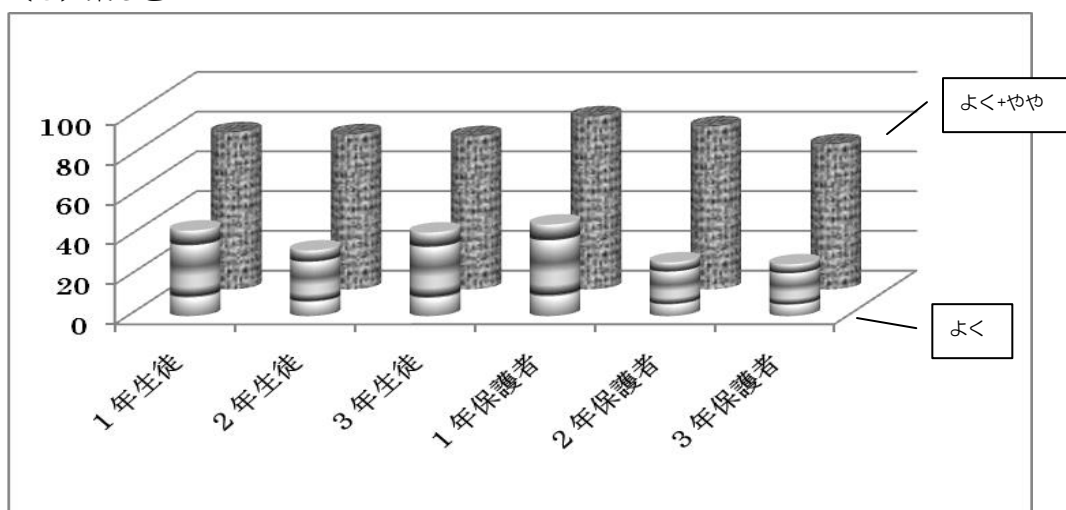
保護者：進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている（％）

	1年	2年	3年
あてはまる	10	7	9
ややあてはまる	53	36	34
あまり当てはまらない	32	50	45
あてはまらない	6	8	12

「あまりあてはまらない」「あてはまらない」層の多さが、一気に跳ね上がっている。家庭は、もっと進路のことに関しても、学校と密な関係を欲しているようである。特に、受験学年である3年生を目前にした、2年生の保護者の不安・悩みが大きいようである。

だが、多忙を極めることもあり、教員が家庭に連絡をするのは「怪我をしたとき」や「体調を崩したとき」、「生活指導上で問題が起こった」ときぐらいで、進路のことに関しては保護者懇談のみで情報交換をすませているのが実情である。さらなる工夫の余地があるのか、関係部署（学年・進路指導部等）での検討を待ちたい。

### （3）楽しさ



これは“学校に行くのが楽しいか”についての質問の結果を生徒・保護者の学年別で表したグラフである。それぞれあてはまる・ややあてはまるの合計は70%を超えている。最も高い値は1年生保護者の87%で、最も低い値は3年生保護者の73%であった。

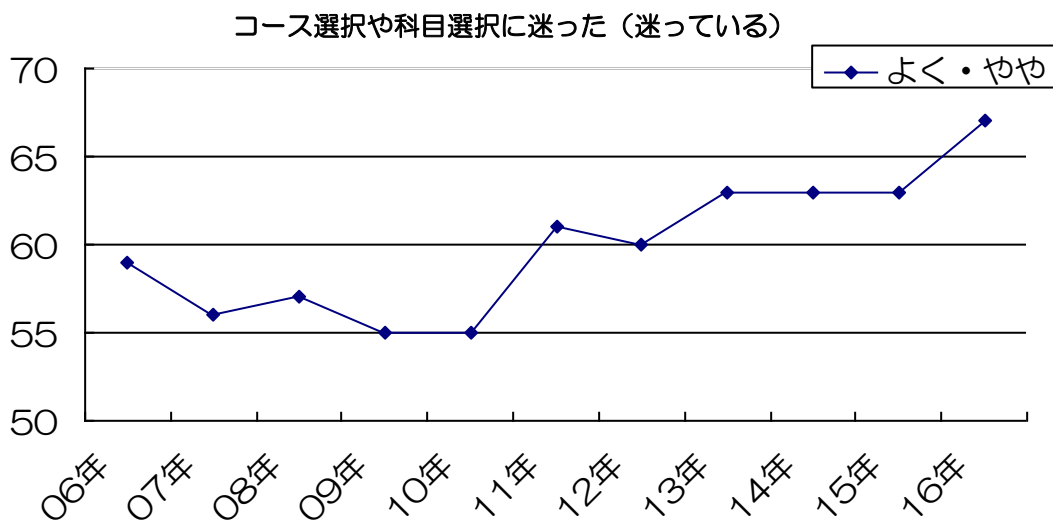
この点において、各学年の生徒・保護者ではあまり大きな差は見られなかった。だが、3年生・3年生の保護者は他学年よりも少しではあるが低い値となっており、やはり次の進路選択や受験等のプレッシャーが少なからずあり、学校に行くのが楽しいと感じる余裕がない生徒がいるのではないかと考える。さらに、各学年10～20%は学校に行くのが楽しくないと感じている生徒がいる。これに関して、今回のアンケートからは明確な理由は分からないが、やはり生徒全員が学校に行くのが楽しいと思えることが理想であり、学校全体として今後克服すべき課題であると思われる。

## 2. 経年変化

自己診断のアンケート項目を経年比較することによって、過去と比較した鳳高校の現状とこれからがよくなっていく。今回は結果を比較検討した中でも特に興味深いものを取りあげてみた。

(1) 科目選択に関して（去年の報告書にも記載されていた）

生徒への質問「コース選択や科目選択に迷った（迷っている）」に対して「あてはまる」＋「ややあてはまる」と解答した生徒の数は以下のようにになっている。



グラフからわかるように、単位制がスタートした08年から比較すると少しずつだが迷っている生徒が増えていることがわかる。また、学年別に見ると「迷っている」と答える生徒の数は科目選択が複雑になる2年生が一番多かったのが、近年は1年生の数も増えている（よく・ややの割合：58%→59%→72%→68%）。入試システムの多様化が進む中、この傾向は今後も継続すると思われる。よく言えば、科目選択に迷っているのは1年次から科目選択に対して真剣に考えるようになった結果、とも言えるかもしれない。

また、「三者比較」のところでは科目選択に関する学校側の情報提供が不十分だという見方もあったが次ページの表からわかるように7～8割の生徒が、学校はきちんと情報提供をしていると感じてくれているようである。これも、ガイダンス委員会を中心に学校全体でガイダンスに取り組んでいる成果といえるだろう。そして、ガイダンス後の生徒アンケートの回答にもあるように、科目選択において先生方からたくさんのアドバイスもらうからこそ「逆に迷ってしまった」という意見もあり、このことも科目選択に悩む生徒の増加に関係しているのかもしれない。

コース選択や科目選択のための情報は学校からよく提供された（されている）

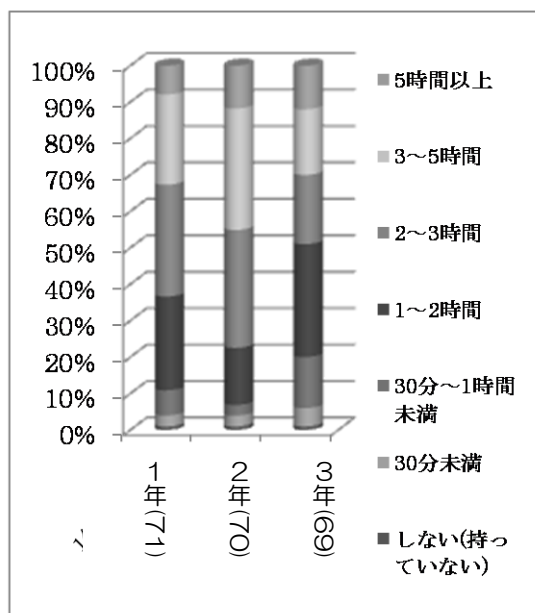
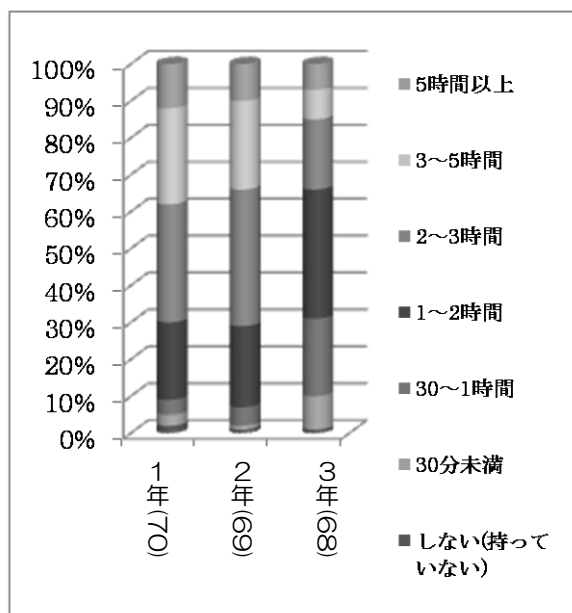
		67期			68期			69期			70期		71期
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	1年
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
よくあてはまる	①	27	18	21	32	32	27	29	23	24	28	25	37
やや	②	48	54	48	49	53	53	50	50	47	52	53	44
あまり	③	19	23	26	14	12	16	17	21	22	17	17	16
あてはまらない	④	5	5	5	5	4	5	3	6	8	2	4	3
①+②		75	72	69	81	85	80	79	73	71	80	78	81

(2) 携帯・スマホ使用時間について

昨年度から新設された項目についてであるが、以下の図からわかるように全体的に使用時間は長くなっているようである。特に「一日3～5時間使用する」生徒が昨年より6ポイント増加した。

携帯・スマホなど使用時間(昨年度)

携帯・スマホ使用時間(今年度)



傾向としては受験を控えた3年生の使用時間が減る傾向にある一方で、1・2年生の使用時間は長く特に2年生は注意が必要である。ただ、最近ではスマホを辞書代わりにしていたり、勉強ができるアプリもあるので単に使用時間を聞くだけではなくどのように利用しているのかも聞いてみてはどうか、という意見も出た。

因みに、携帯・スマホの使用時間と平日の学習時間との相関について、今年の1年生と3年生を比較してみると・・・

3年生徒		スマホ・携帯 (単位：時間)							総計
		5以上	3~5	2~3	1~2	0.5~1	0.5未満	しない	
平日学習	3以上	16	24	32	66	33	14	3	188
	2~3	5	21	15	14	6	1		62
	1~2	7	6	5	7	1			26
	1未満	1	1	1	3				6
	しない	5	2	3	1	2			13
	総計	34	54	56	91	42	15	3	295

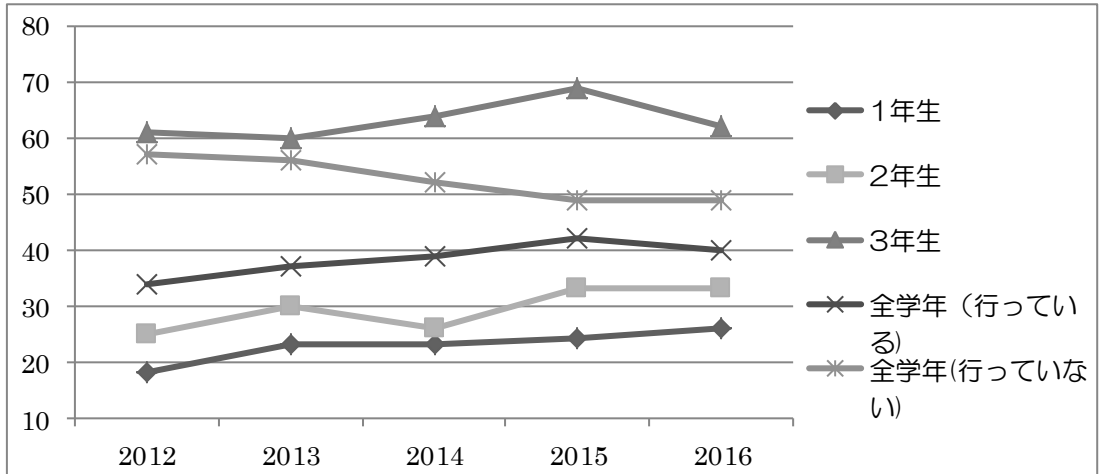
1年生徒		スマホ・携帯 (単位：時間)							総計
		5以上	3~5	2~3	1~2	0.5~1	0.5未満	しない	
平日学習	3以上	1	3	3	2	1			10
	2~3	2	8	7	9	3	3		32
	1~2	5	24	36	37	13	4	2	121
	1未満	6	30	39	20	4	1		100
	しない	11	13	13	14	2			53
	総計	25	78	98	82	23	8	2	316

3年生の学習量はさすがだが、やはり携帯・スマホの使用時間も自制がきいている様子がよくわかる。対して1年生はまだまだ学習への意欲も乏しく、他方携帯・スマホに引っ張られている様子がみてとれる。

### (3)「塾」に関して

生徒用の質問項目 23「あなたは現在、塾・予備校などにかよっていますか」の回答から塾に行っている生徒と行っていない生徒を学年別に経年比較したところ（次ページの図）、ほぼどの学年も「行っている」生徒が増えて「行っていない」生徒が減っていることがわかる。学校全体で見ると「行っている」生徒と「行っていない」生徒の数はほぼ同じ数に近づいており、数年後には「行っている」生徒の数が逆転するかもしれない。

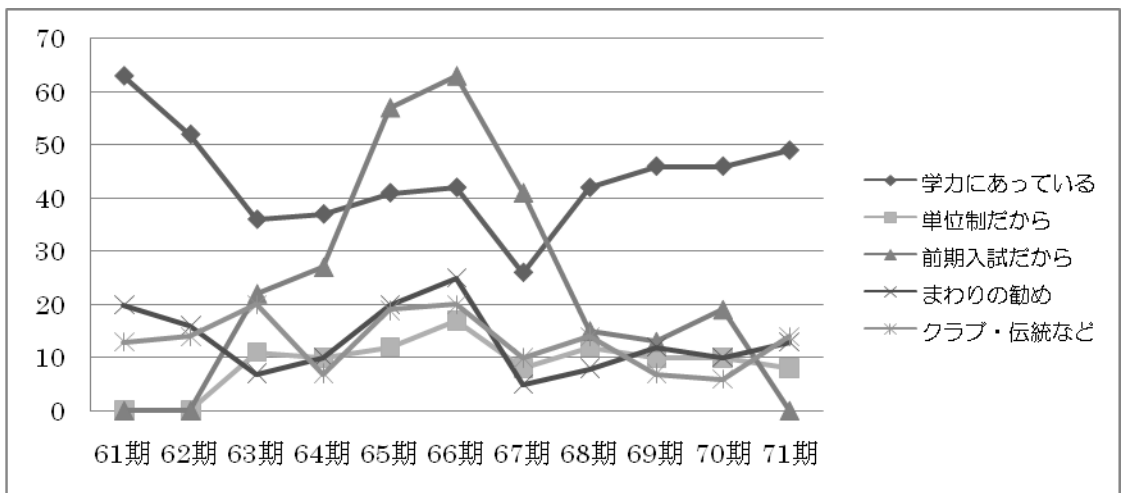
## 塾・予備校に行っている生徒の割合



### (4) 受験理由

最後に、生徒用の質問項目 27「鳳高校を受験しようと決心した第一の理由は何ですか」について考えてみたい。

#### 鳳高校を受験しようと決心した第一の理由



意外(?)にも近年「単位制だから」という理由は少数派になっており(ちなみに今年是最下位)、「学力にあっているから」と回答する生徒がダントツで多くなっている。注目したいのは、それに続いて今年度は「クラブ・伝統など」が2番目に多い理由となっており、広報活動や学校見学会でのクラブ見学が功を奏していると思われる。

### 3. 期別特性(71期生)について

昨年度のレポートで、70期生(昨年度の1年生)がいくつかの項目で過去最高の数字を叩き出していることが報告された。たとえば、「授業中はよく集中できている」や「よく理解できている」という項目では「よく」と「やや」を加えた数値がそれぞれ82%、75%で過去最高であった(これらの項目は、今年2年次生として平凡な値に落ち着いた)。

他方、今年の71期生(1年生)についてもいくつかの点で特徴的な数字が上がっている。

- i) 「授業に集中できている」・・・「よく」と「やや」の合計が76%で過去5年でワースト1位タイ。
- ii) 「進路の資料が学校からよく提供された」・・・僅差ながら過去5年で最高。とりわけ「よく」と答えた割合が37%でこれは大差で1位である。
- iii) 「行事は生徒の自主連携を高めている」・・・過去5年で最高。これも「よく」と答えた割合が24%で、20%を超えたのは統計が残っている2006年度以降初めてである。これは、学校生活に馴染んでいるはずの3年生の21%をも上回っており、前述のii)の項目と併せて、学校に対して肯定的な感想を持っていることがうかがえる。
- iv) 「クラブとの両立に悩んだ」・・・「よく」と「やや」の合計が過去4年で50%を超えているのは71期生のみ。

#### 授業中はよく集中できている

1年生比較	67期生 2012	68期生 2013	69期生 2014	70期生 2015	71期生 2016
あてはまる	17	18	19	18	13
やや	59	64	62	64	63
計	76	82	81	82	76

#### 進路の資料が学校からよく提供された

1年生比較	67期生 2012	68期生 2013	69期生 2014	70期生 2015	71期生 2016
あてはまる	27	32	29	28	37
やや	48	49	50	52	44
計	75	81	79	80	81

#### 行事は生徒の自主連携を高めている

1年生比較	67期生 2012	68期生 2013	69期生 2014	70期生 2015	71期生 2016
あてはまる	15	16	19	17	24
やや	39	46	42	48	47
計	54	62	61	65	71

#### クラブとの両立に悩んだ

1年生比較	67期生 2012	68期生 2013	69期生 2014	70期生 2015	71期生 2016
あてはまる	20	14	20	18	21
やや	31	27	24	25	29
計	51	41	44	43	50



これらの結果から、概ね71期生は良くも悪くも内省的であり、集団での達成感を求めているのではないかと思われる。

#### 4. 項目間の相関関係から

		設問 20 入学して満足			設問 1 学校が楽しい			
		1年	2年	3年	1年	2年	3年	
授業	設問 3	授業内容はよく理解できている	46.3	31.2	44.1	46.3	38.9	45.4
	設問 4	授業が分からない場合は先生に聞く	46.3	33.6	44.8	51.3	<b>42.3</b>	46.2
自己実現	設問 8	自分の進路に必要な科目が本校の授業から選択できる	41.2	28.8	41.1	44.9	33.9	43.0
	設問 7	科目選択のための情報は学校からよく提供された	44.2	32.0	44.1	45.7	34.6	45.5
行事	設問 14	自分は積極的に行事に参加した	43.4	32.4	43.0	47.4	37.7	48.9
	設問 13	自治会の行事は自主性・連帯感を高めることに役立っている	44.9	33.5	43.9	48.0	37.1	51.6
その他	設問 5	将来の進路や生き方について考える機会がある	41.5	30.7	41.3	46.7	35.9	45.0
	設問 15	授業などで、豊かな心や人の生き方について考える機会がある	<b>50.3</b>	<b>36.7</b>	<b>48.6</b>	<b>53.0</b>	41.7	<b>56.8</b>
	設問 16	命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある	47.8	34.5	46.6	51.7	39.5	50.5

(塗りつぶしはそれぞれ縦の数字を比較したときの第1位と第2位)

上の表は設問 20「本校に入学して満足している」と設問 1「学校に行くのが楽しい」の2つの項目と、他のいくつかの質問項目との間の相関関係を探ったものである。

数値は、それぞれの設問（3～16）で「よくあてはまる」「ややあてはまる」を回答した生徒のうち、設問 20 と設問 1 で「よくあてはまる」と回答した生徒の割合である。

たとえば右表では、

$$\frac{19+43}{33+166} \times 100 = 31.2\%$$

という具合。

これらの数値は、相関を分布表でみるよりも一層相関関係を、浮き彫りにする働きがあると思われる（林定数）。

		2年	設問 20 学校満足度				
		設問 3	1	2	3	4	総計
授業理解	1	19	6	6	2	33	
	2	<b>43</b>	95	18	10	166	
	3	24	47	24	8	103	
	4	1	4	2	4	11	
総計		87	152	50	24	313	

この表に現れる数値から、生徒たちが学校に満足している、あるいは学校を楽しんでいる要因を探りたい。

まず目につくのは、いずれの項目においても、すべての学年で「授業などで豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の値が第1位または第2位になっていることである。満足度や楽しさとの相関の強さがここに現われているのは、様々に工夫を凝らし、内容に富んだ授業や行事を提供している側にとってはうれしい数字と受け取れる。

また、2年生の数字が他の学年に比べて低いのも目につく。これは算出の方法から、そもそも「満足度」や「楽しさ」について「1：あてはまる」と答えた生徒の数が少ないことの表われである。この傾向は69期生が2年生のときに遡って調べても同じ傾向がうかがえる。2年生という学年の特性なのかも知れない

他方、表では「授業」「自己実現」「行事」の3つのグループに分け、いずれも2つずつの項目が選択されている。これはそれぞれ上段が自分たちの「能動性」につながるもので、下段が「受動性」につながるものとして選んでいる。これらの比較によるとどのグループでも下段の「受動性」にあたる項目の方が数値が高くなっている。自らが「積極的に動いて得られた達成感」よりも「与えられた満足感」のほうがより強い傾向があるということか。

## 5. 今年度新たに加わった質問項目から見えてくるもの

教育庁からの指示もあり、今年度から新たに加わった質問項目がある。これらについては当然ながら過去のデータと比較することはできないが、単年度の結果からでも垣間見られるものがある。生徒・保護者に対するものと、教員に対するものに分けて考察した。

### A：生徒・保護者に対して

＜肯定的結果から＞

i) 『将来の進路や生き方について考える機会がある』

「よく」と「やや」併せて83%。ガイダンスを中心とする学校全体をあげての進路指導が肯定的に捉えられているのか

ii) 『生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている』

「よく」26%、「やや」52%。生活指導部を中心に各学年ともに生活習慣の確立については、日常の指導体制が確立され、定着してきている感があり、それが肯定的に捉えられている様子がうかがえる。他方、保護者への質問にある「本校の生活指導の方針を理解している」に対する回答は「よく」16%、「やや」54%とやや低め。日々の生活指導の実態を保護者の方々にご覧いただく機会もなく、ある程度仕方のないところか。

iii) 『生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている』

これも「よく」と「やや」併せて78%。人権学習や公演、生活指導部関連の講話などが評価されているのか。

### <否定的結果から>

#### i) 『悩みや相談があるときに、親身になってくれる先生がいる』

「よく」21%、「やや」40%。併せると6割を超えているがまだ寂しい感もある。年々若い先生も増え、相談しやすくなっているようには感じるのだが。

#### ii) 『保健室や相談室等で、気軽に相談することができる』

「よく」11%、「やや」23%。そもそも悩みがない生徒もいるので、これが少ない数字なのか、大きな数字なのか評価は難しい。教育相談等の体制はかなり整っており、生徒からの訴えを拾う手だても講じているので、今後も粘り強く対応していくことが大切か。

#### iii) 『進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている』

「よく」と「やや」併せて51%。対して、「あまり」が41%。関連する他の項目への回答から、進路指導そのものには肯定的であるにも関わらず、この設問に対しては数字が上がらない。生徒への対応とともに、保護者への発信も心がけなければならないか。

#### iv) 『学校は保護者の願いにこたえている』

「よく」9%、「やや」63%。併せて72%をみてよしと考えるか、「よく」が一桁であることに落胆するか。本来ならば謙虚に後者でありたいところ。しかしながら、どうすれば数字が上向くのかは一概には言えない。「保護者の願い」とは何なのか。アンケート実施時期が学年の途中であることも数字があがらない一因のようにも思える（保護者とのキャッチボールがまだ十分でない時期）。

#### v) 『ホームページをよく見る』

「よく」8%、「やや」25%。この数字をどう見るかもまた難しい。多くの方に見ていただきたいような気もするが、そもそも必要と感じておられない方が多数でも特に不思議ではない。ただ、内容に不十分さを感じて数字が低いのであれば憂慮すべき。一層の努力は必要か（今回も記述でのご意見が1件あった）。

## B：教員に対して

### i) 全般を通じて

①全体の評価が80%以上の項目が22/25！

→ 教職員の「鳳」に対する満足度は高い

②「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に話し合えるような職場の人間関係ができてい」について

→ 全体として88% 良好な職場の人間関係・「鳳」の温かさを感じる

### ii) 肯定的結果から

各世代ともに「よく」と「やや」の合計が85%を超えている項目が8項目あり、「鳳高校の強み・良さ」として教職員全体で共有している項目と考えられる。

【質問1, 2, 4, 8, 14, 15, 19, 20】

①生徒像：「熱心に授業を受け、頑張っていて勉強している真面目で素直な生徒」「充実した学校生活を送っている」

②単位制・ガイダンスの充実：「生徒一人ひとりに合わせたきめ細かい指導」

③しっかりした教育相談・生指の指導体制：「一人ひとりを大切にしたい悩みを相談しやすい温かい環境」

iii) 否定的結果から

各世代ともに「よく」と「やや」の合計が60%を下まわっている項目が2項目あり、これらは「これからの鳳」を考えるときに考慮に入れたい項目である【質問5, 21】

①生徒の自己管理能力を育てるための手だて

→ ノーチャイムウィークなどの取組みも方策のひとつ

②体験学習やボランティア活動の推進

部活動レベルでは結構取り組んでいるのに、あまり外には見えない点もあり

(国際ボランティア部・オーケストラ部・フォークソング部・演劇部・ダンス部・陸上部・サッカー部など)

地域へのアピールも必要か(一斉外回り掃除キャンペーンなど?)

iv) 世代間で評価が異なる項目について

①「鳳高校の応援団60代！」 → 100%連発!

ずっと学校の第一線でご活躍いただき、「鳳」を愛し、誇りに思ってお下さっている! 温かい目で「鳳」を見守ってくださっている!

ただし、厳しい目で改善すべき点も捉えてくださっている

②「課題を感じている若手」 → 他の年代に比べて全般的に低い(=満足感が低い) ベテラン⇄若手のコミュニケーションをもっと図るべき

「校内新任研修」「座談会」などの取組みで、「鳳の話」を、もっとしていけたら若手の課題意識を取り入れ、学校運営に生かすことも必要

③「全般を通して高い数値の50代」 → 60代よりも高い項目もかなりあり

「鳳」を愛し、今の現状に満足感が強い

批判的な感覚・学校改革の意識は他の年代より少ない

## 6. 最後に

今年度も生徒、保護者ならびに教員からのアンケートをもとに、各委員の積極的な分析の成果として報告書をまとめることができた。検討の中で、様々な意見交換がなされたが、その中から、とりわけ興味深く、今後の検討が待たれるものについていくつか挙げておきたい。

ひとつは生徒の自己管理能力についてである。P3 下段でも述べられているように、年々肯定的な数値が上がっており、かなり顕著な変化が見られる。生徒が何を根拠に自己管理能力を誇っているのか不明なままである。教員との意識の違いも大きくなるばかりで、今後の生徒指導にも影響する可能性もあり、様々な部署で話題にしていっていただきたい。

次に最近話題にことかかない「携帯電話・スマホ」の利用実態についてである(P7 参照)。生徒たち自身、使いすぎていると感じている節は日々の会話の中から感じられることもあるが、実態は目を覆わんばかりである。明らかに学習時間を阻害しているように思われる。とりわけ1,2年次の間が憂慮される。ただ、昨今、学習活動の中でスマホを活用することもできるように聞く。これについては別途質問項目を設け、さらなる分析をすすめてもよいか。

ホームページについても、毎年のように保護者の方から記述回答でご指摘を受けることが

続いている。しかしながら、今回のアンケートの結果を見る限りでは、ホームページをよく見るという方は3割程度にとどまっている。見る人は見るし、見ない人は見ないというのは当然だが、高等学校のHPの役割としては、やはり中学生やその保護者へのPRという側面が大きく、現役の生徒たちの様子を伝えるという部分はそれに比べると劣ってしまうのは、我々が担っているその他の業務を考えるとある程度止むを得ないところか。HP委員会も組織され、徐々に更新のシステムは整いつつあるが、まだまだ発展途上でもある。少しでも多くの方々に見ていただけるよう、一層の努力をお願いしたい。

更に、保護者のニーズという観点からは、学校からのさらなる情報提供を望んでいる様子が見えがえた。P4～P5でもあったように、進路情報なども、生徒を通じてはなかなか家庭にまでは届いていないのが実情である。学年通信や進路通信の充実や前述のホームページの活用も検討をお願いしたい。

その他、昨年度から再び変更された入試のシステムについて、入学した生徒の資質に変化があるのか調べてみてはどうかという意見もあった。何をどのように聞けばわかるのかまでは議論を深められなかったが、「5科目」→「3科目」→「5科目」と移り変わる入試科目で何か変化が起こっているのか興味深いところではある。

以前に比べ、我々教員のこなすべき業務内容は確実に増加しているように思う。それらを日々誠実にこなしていながらも、まだまだ前記のような課題が見つかる状況もあり、本当に頭がいたいところである。目を背けることはできないが、全てを引き受けることも物理的に不可能な面もある。うまく取舍選択をしながら、少しでも満足度の高い学校にするための資料として活かしていただければ幸いである。

以上